



最優秀賞（林野庁長官賞）

森林の未来のために今

相模女子大学小学部

一戸 紗代

私達四年生は十月十八日、社会科見学で高尾山にある、森林教室に行きました。バスの中では、ワクワクしているだけで、何も森林の深刻な問題について考えていませんでした。しかし、そんな風にできたのはその時だけで、林野庁の方のお話が進んでいくたびに、顔が曇っていきました。

私が森林の役割について知っている事と言は、酸素を作ってくれらるということぐらいで、他の事も少ししか知らず、どこか人事のようにとらえていました。お出かけて森林を散策する時だって、植物を見て楽しむだけで、森林についてそこまで深く考えたことは一度もありませんでした。だから、林野庁の方のお話を聞いた時、始めて知ったことが沢山ありました。特に私が気になったキーワードは、「地球温暖化」です。その中でも人間のせいだという事を聞いて、とても胸が痛みました。だからまず、市や地域のゴミ拾いをするなど、私たちにできる事から始めようと決めました。それから、森林に感謝しようとも思いました。林野庁の方のお話によると、人間一人の酸素を作るには、木が二三本必要で、家族四人では四六〇本、そして車一台に必要な酸素は一六〇本らしいです。森林がないと、私達が生きるのはほぼ不可能になってしまいます。森林には私達が気づかないうちにお世話になっているんだと実感しまし

た。そう思うと、木の一本一本に「ありがとう」と言いたくなってきました。私達四年生は今、探求でSDGの事を調べています。特に私の班は「陸の豊さも守ろう」という目標なので、もっと森林について知りたくなってきました。旅行で車に乗って山道を通るとき、私が住んでいる街とは全くちがう、新鮮な空気が窓から入ってきます。この空気をすうと、とても良い気持ちになって、伸びをしたくなります。しかし、私達人間のせいで、私達が大人になる頃にはこの空気もすえないかもしれないと思うと、悲しくなります。だからそうならないためにも、私達が少しでもできることはたくさんあると思うので、ちょっとしたことでも今からやってみようと、この学習を通して学ぶことができました。森林の未来は、人間にかかっているのだと、分かりました。

ほんのちょっとした事だけど、ちょっとした積み重ねでも、大きなことにつながると思うので、森林のために今、少しでも自分ができる事を今日からやっていきたいです。そしていつか、今以上にすてきな森林がどこにもあるようにしたいです。

